

創立記念日（2月2日）

鳥取県立境高等学校

本校の前身である旧制境中学校は昭和15年に創立されました。当時鳥取県西部には中学校としては米子中学校（現米子東高等学校）があるだけで、年々増加する進学希望者の向学心を十分に満たすことができませんでした。このような時に境地区の人々の間に中学校創設の機運が高まりました。地元有志の中心となったのは当時の境町長景山圭一氏で、熱心に県当局に働きかけました。

一方、当地出身の実業家である岡田信吉朗・岩田熊吉氏を始めとして、地元関係者などから多額の建設費が寄付され、また約一万坪の校地も準備されました。こうして昭和15年1月11日、県参事会で境中学校創設の決議がなされ、同年2月2日には文部省告示50号により設立が認可されたのです。同年2月10日には、初代校長として当時の米子商蚕学校（現米子南高等学校）校長吉灘好栄先生の発令がありました。

初年度の境中学は、募集人員150名に対して応募者が372名に上り、県下第一位の倍率となりました。4月6日には、境小学校の仮校舎で開校式並びに入学式が行われました。小学校を卒業したばかりの一年生たちは、勉強のかたわら夏休みも登校して、校舎建築を手伝いました。こうして木の香もにおい立つ新校舎に移ったのは、昭和16年3月13日のことでした。この校舎は現在の東本町にありましたが、翌17年6月にはその南側に第二校舎と講堂が落成しました。

昭和18年の夏には多数の大八車を連ねて、20キロの浜街道を日野川まで石を採りに行きました。この石が校門左右の垣の構築に使われました。この石が創設当時の名残を留めるものとして、現校舎でも「かしのは会館」の前庭と仕切りの生け垣に使用されています。また校庭の檜や椎などの樹木も、昭和39年12月の校舎移転の時に、当時植えた苗木を移植したものです。つまり本校と同じ樹齢77歳の樹木ということになります。（平成29年2月2日（木））

校章の由来



本校は、昭和15年、鳥取県立境中学校として誕生した。昭和23年境第一高等学校と改称。翌24年、境第一・境第二・境水産の3校が統合、境高等学校となった。

校章もこの時改めた。「波」の上に3枚の「^{かし}檜の葉」が勢いよく伸びている。「波」は当地境港のこと。「檜」は古代日本の中心を被っていた神聖な常緑樹。

境地区で統合した3校生徒の健やかな成長と、全国に誇りうる本校の発展を意図したものである。

後水産高は独立したが、本校校章はそのまま残っている。